

「イラスト外科セミナー 手術のポイントと記録の書き方」 第2版

小越 章平 著

札幌医科大学教授・外科学第1講座

平 田 公 一

“若い外科医諸君よいぞ集まれん、この場所へ！”と叫ぶがごとく訴えかけている手術書、外科手技解説書である。今日までに発行されてきた教科書の型に真似て新たな教科書を完成させようとするのはやさしかろうが、本書はそこからの脱却を目指した、21世紀に向けた新しい形の教科書と言えよう。カルテ、そして手術記録の記載により自ら学ばんとする積極的姿勢のある若い外科医、そしてたとえ指導的立場あるいはそれに至らんとしている中堅外科医においても、是非読んで(観て)いただきたい教科書である。また、いざというときのためにも、大切な座右の書の1つとして側に置いていただきたいと考える。本書からは、手とり足とりコツとポイントを教えて下さるかのごとき情熱が伝わってくる。これぞ小越教授の精神=THE OGOSHI'S SPIRIT ともいうべき心意気がすべての頁に満ち満ちている。たとえ安易な気持ちでイラスト

に眼を通し始めたとしても、気がつかぬうちに己の脳皮質に集中力が形成されていて、のめりこんでしまう。英語記載についても外科手術記録であることを踏まえた念入りな表現となっており、留学されようとする方にも必携の書と言えよう。

自らが手術野で展開させようとする芸術をいかに発展・進歩させるかについて教わるには、何と言っても術者あるいは第一助手となって手術に参加し、執刀することが重要であるが、それと同様の比重をもって手術の技術と考え方の“コツ”と“ポイント”を、熟達・完成した外科医ならではのイラストとむだのない短い必要最小限の語句による解説から教わることができるのである。外科医から外科医へと厳しく語るがごとく、そして一方では内容的には優しく指導表現されていると思う。厳しい指導者のあのしっかりとした肉声が入ってくるようである。表紙から最後の頁までのすべてを、教育

上の哲学ともいうべきお考えによって浸しており、それを若い人たちに分与したいという気持ちで満ちている。加えて、めったに耳にすることのできない名医の本音も聞こえてくる。将来ある若い外科医にむだを熟知させつつもむだなく時間を過ごしてほしい、勉強してほしいという大きな期待をかけているがゆえと拝察するところである。

一度読み終えると、考え方と手技の未知の部分を知りえたような気がする。二度読み終えたら、名外科医へと少し近づいたような気がする。三度読み終えたら味のある外科医としての発言が可能となり、すばらしい視野をもった一外科医となれることへの保証がつきそうである。まずは“try!!”。「イラスト外科セミナー」を購入し、読んでみましょう。

● AB判 頁296 イラスト176 表17 1998 定価(本体6,500円+税) 7400

医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)